Will

KENSHOKAI COLLEGE OF HEALTH AND WELFARE



専門学校 健祥会学園 同窓会会報 | ウィル

同窓生ロングインタビュー

介護職だった頃も、そして今も、仕事への想いは同じ
人と人をつなぎ、お客様に希望と安心を届けるために

介護福祉学科 3 期生 南 健司さん …… 4

MESSAGE

健祥会学園の近況について
専門学校 健祥会学園 校長 武田 英二 …… 2
進む道、極める道 日々新たなり
健祥会グループ 理事長 中村 太一 …… 3

同窓会総会 …… 7
特別講演
＋UPDATE 4学科卒業生近況報告 …… 8
同窓会勉強会報告 …… 10

一日 CAMPUS 見学会 …… 11
NEW FACE | 編集後記

2020 MARCH VOL.13



MESSAGE

健祥会学園の近況について



専門学校 健祥会学園

校 長 武田 英二

1974年3月 徳島大学医学部医学科卒
徳島大学医学部付属病院 小児科、高松市民病院 小児科、米国インディアナ大学医学部などを経て、1992年より徳島大学医学部教授（病態栄養学）。栄養学科長、徳島大学病院「食と健康増進センター長」、21世紀COE「ストレス制御をめざす栄養科学」拠点リーダー、国立大学法人徳島大学大学院教授（臨床栄養学部門）、同大学教育研究評議員などを歴任。2014年4月 専門学校 健祥会学園（旧徳島健祥会福祉専門学校）校長に就任。
学位／医学博士（徳島大学）
受賞等／1988年 康楽賞（財団法人康楽会）・1998年 日本ビタミン学会賞・2004年 日本栄養・食糧学会賞・2015年日本病態栄養学会アグライア賞

1、徹底的に寄り添った人財の育成

本学園の創立以来、2019年度末までに2,900名余りの学生が巣立ち、社会で活躍されています。同窓生の社会での活躍が本学園学生の学習意欲に繋がっておりますが、同窓会・同窓生からのさらなる支援と励ましが必要です。

専門職に対する期待は、社会の発展に伴ってますます大きくなっております。そのため、習得する知識や技術は多くなり学習内容も一段と深くなっています。入学した学生の多くは、気持ちを新たにして生活習慣を改めて勉学への意欲を燃やし始めます。しかし、少数の学生はエンジンがかかるまでに時間を要する場合もあります。そのような学生に対しても、本学園では徹底的に寄り添った教育を繰り返すことで、80%～100%の学生が介護福祉士、保育士、幼稚園教諭、理学療法士、作業療法士として、社会へ出て行っております。

本学園の建学の精神は、「『福祉は人　人は心』の理念を体得し、グローバルな視点を持った『礼儀と感謝』を実践する福祉と医療のスペシャリストを養成する」です。また、教育方針は、「礼儀と感謝を実践し、介護、保育、医療の知識・技術を知恵に変えることができる現場力を有し、ダイバーシティの観点を持った『心と心を繋ぐ人財』を育成する」です。教職員はこれらを胸にきざんで学生の教育・支援を行っています。

2、「職業実践専門課程」としてのレベルアップ

本学園の特徴は全学科が文部科学省から職業実践専門課程として認定されていることです。教育の質、教員のレベル、教育環境が評価された課程ですが、継続した教育レベルの向上が求められています。現場の意見や技術をカリキュラムに導入することが求められており、現場で専門職として活用されている同窓会会員からも知識や技術を指導していただいています。さらに同窓会には勉強会の開催やオープンキャンパスの講師を務めていただき、卒業生や後輩の勉学・キャリアアップも支援していただいています。

3、同窓会とともに歩む

学園祭では、西村博様の講演「たった一言で福祉が変わる！～心と心をつなぐ　ほめ言葉の魔法～」を通して、頑張るために褒めてもらうことの大切さを教えていただきました。令和の幕開けにあたって、友人、家族、教員と〝心と心を繋げる機会〟を見つけ、社会の期待に応えるために全力疾走する本学園のエネルギーを発揮していきます。

最後にお願いです。本学園も社会の少子化の影響を受け、入学生は減少傾向がみられます。同窓会と本学園が協力することで、お互いの発展に繋げることを期待しております。できれば同窓会諸兄から、本学園で勉学を希望される後輩をご紹介いただきたいと願っています。どうぞよろしくお願い致します。





進む道、極める道
日々新たなり

健祥会グループ
理事長　中村　太一

1996年東海大学教養学部生活学科生活経済学課程卒
2013年健祥会グループ理事長に就任。2016年11月～2019年10月、徳島商工会議所第25代会頭、徳島県商工会議所連合会会長、日本商工会議所総合政策委員会委員を務める。その間、徳島県総合計画審議会委員や徳島市都市計画審議会会長、徳島地方最低賃金審議会委員、日本貿易振興機構徳島貿易情報センター会長、関西広域連合協議会委員など多くの国・県・市の審議会や委員会の委員として力を注いだ。また、2019年6月徳島県産業教育振興会会長に就任。産業教育への支援に加え経済界と教育関係者との交流をはかるべく尽力している。徳島県ゲートボール協会会長、四国地域協議会会長、公益財団法人日本ゲートボール連合評議員としてゲートボールの普及にも携わる。

建学の志を高く掲げて

同窓生の皆様には、日頃より本校と同窓会活動にあたたかなご支援ご協力をいただき、心より感謝申し上げます。本校は、1996年の創立以来、変わりゆく時代の流れに歩を合わせて進化を続け、多くの優秀な人財を世に送り出してきました。超少子高齢人口減少社会にあって、私たちを取り巻く環境は厳しさを増していますが、どんな時代にあっても、「優しい心と実践力を持った専門職を育て、社会の安心を支える」という建学の志を高く掲げ、果敢な挑戦を続けています。

変わりゆく現場、「生涯学び」の心で

昨年10月、全世代型社会保障を掲げて消費増税も実行され、幼児教育・保育の無償化もはじまりました。高齢化のピークに向かって社会保障制度を持続可能な制度とするためには、診療報酬も介護報酬も改定ごとに厳しさを増すと思われます。事業者にとってはサービスの効率化と高品質化が課題。生産性のアップをめざして、医療・介護現場にも、ＩＣＴやＩｏＴの活用が広がっており、健祥会グループの介護現場でも口ボットが介護職をサポートしています。これからの専門職には、高い専門性に加え、先端技術を使いこなす力が不可欠であり、皆さんの仕事は生涯学びであると言えます。

また、生産年齢人口の激減を補うために外国人労働者の受け入れ拡大が図られており、介護分野では4つの制度のもとで就労が可能となりました。この動きはさらに加速し、我々は多様な人財が能力を発揮しながら競い合う「共創」と「競争」の時代を生きていくことになります。

たゆまぬ進化と挑戦をともに！

超少子高齢化時代にあって、介護・医療、保育・教育の担う役割はいよいよ重く、社会の期待とともに、専門職への需要は高まる一方です。本学園への求人は介護福祉学科48倍、保育学科137倍、理学療法学科67倍、作業療法学科105倍にも上っており、まさに売り手市場です。働き方改革が叫ばれ、介護職や保育職の待遇改善も進んでいるものの、まだまだ充足率は低く、本学園をはじめとする専門学校への志願者も減少の一途です。けれどこの仕事は、専門性とやさしい心を以って人に向き合い、その人生に光をもたらす素晴らしい仕事です。今現場で活躍する皆さんの活躍が後進の刺激となって、この道をめざす高校生、そして学び直しで専門職をめざす社会人が増えることを願っています。在学生への手厚い教育はもちろん、卒後教育への注力といった本学園ならではの強みをぜひとも広く社会へ発信していただき、志願者増にもお力添えいただきますよう、お願い申し上げます。

どうか立ち止まることなく進化を続けてください。本学園も、いつまでも皆さんの頼もしいプラットホームであり続けられるよう、進化し続けます。



介護職だった頃も、そして今も、仕事への想いは同じ。人と人をつなぎ、お客様に希望と安心を届けるために。

株式会社旭木工 ケアサービス事業部統括本部長

南 健司さん 40歳

2000年3月、専門学校 健祥会学園（旧徳島健祥会福祉専門学校）介護福祉学科卒業。4月 社会福祉法人健祥会入職。2004年、株式会社旭木工に福祉用具専門相談員として転職。立ち上がってまもない福祉用具レンタル部門を牽引し、淡路・新居浜各営業所の立ち上げを担う。現在新居浜と徳島を行き来しながら、多忙な日々を送る。

介護福祉士としての現場経験3年を経て、家具の製造販売の老舗・株式会社旭木工の福祉用具レンタル事業部門に営業職として転身。新店舗開設などにも携わって全力疾走の17年。卒業後20年の節目に、いまも走り続ける専門学校 健祥会学園（旧徳島健祥会福祉専門学校）介護福祉学科3期生 南健司さんを訪ねた。

介護福祉士をめざしたのはなぜですか？

大きな声では言えませんが、成り行きなんです。実は、高校時代ソフトボールに打ち込んでいて、大学受験の勉強をまったくしていなかった（笑）なのに、ソフトボール枠で拾ってもらうつもりだった大学に蹴られて、行くところがない（笑）・・それで専門学校が進路の視野に入ってきたんです。

専門職の道もいろいろありますが、なぜ介護を？

当時ね、今から22年前ですが、介護保険制度のスタートに向けていろんなものが動いていた時期。これから高齢者福祉はいいぞという共通認識みたいなものが社会にあって、高校生のボクにも伝わってきてましたね。それで、介護福祉士になろうと。もともと人と関わるのが好きだったということも大きな要因です。

健祥会学園での2年間はいかがでしたか？

120人定員3クラスになったばかりの年で、賑やかでしたね。本当にみんな仲良くて楽しい2年間でした。先生方も熱心で、親身に見てくださいました。もう当時の先生方はほとんどおられないようで、20年という時間の流れを感じます。

卒業後は、健祥会に入職なさったんですね

2年間通った学園のすぐ隣、健祥会デイサービスセンター徳島に配属になりました。そこで3年間、デイサービス、配食サービス、訪問入浴などの業務を担当しました。

介護保険のスタートと同時の就職ですね

そうなんです。現場は初めてだらけで、めちゃめちゃ忙しかったですね。今でこそ介護現場でも、残業しない、ちゃんと休みをとる

というのが当たり前になってますが、当時は、毎晩遅くまで事務作業にも追われていました。でもね、仕事もやりがいがあったし、高齢者の皆さんとの関わりは楽しく、毎日が充実してました。

健祥会で勤務した3年間の思い出は？

私の直属の上司はひまわりの施設長で、今の理事長です。弟の面倒を見るみたいな感覚でいてくださったのか、本当に大事にしていただきました。20歳になったばかりの私に社会人としてのいろはを教えてくれたのは理事長です。本当に感謝しています。時間を見つけてはゲートボールをしたり、夜食を食べながらプライベートの話もしたり、とにかく楽しかった。仕事のことではおそらく厳しい面もあったはずですが、楽しいことしか覚えていません。



充実していたのに転職したわけは？

利用者様や家族様、職員の方々、いろんな人と、日々新たな関わりがあり、とても楽しかったのですが、施設という限られた世界から外へ出て、もう少し広い世界で何ができるか試してみたいと思うようになったんです。3年勤務して、介護の技術、コミュニケーションの力、介護保険の知識など、身に付けたものをもっとアクティブに活かしたくなったといえばいいかな。

旭木工さんのケアサービス事業部を選ばれた理由は？

私の入社する前年にケアサービス事業部ができたところで、まだ陣容は整っておらず、営業職を募集してました。人と関わるのが好きだから営業職には魅力を感じたし、3年間のキャリアも活かせると思い、お世話になることに決めました。組織がまだスタートアップ期だというのも魅力でした。

当時、事業部はどんな態勢だったんですか？

4、5人いたスタッフは、もともと旭木工の家具の営業だった社員さんたちでした。なので、介護用品レンタル事業は彼らにとっても未知の世界。介護保険に関する知識は持っていなかったので、自然に私がいろんなことを担うようになりました。会社のシステムづくりから始まって、本当に大変でした。大変だけど面白かった。いつもそうですね、私（笑）。

現場経験は役に立ったでしょうね

現場を知っていて、介護保険の知識もあるので、社内でも重宝がられたし、ケアマネさんにも非常に信頼していただけました。健祥会での3年間があってこそ、用具レンタルでの実績がついてきたと思います。

淡路島や新居浜での出店にはどのように関わられたのですか？

淡路の店は社長とともに建物づくりから関わらせていただきました。また、店舗の建設と並行して、10ヶ月ほどアパートに泊まり込んで事前営業をかけ、お客さんを獲得してオープンを迎えました。洲本インターの少し南、国道28号線沿いにあります。とても美しく、自慢の店です。そして私にとってはとても思い入れの深い店です。

淡路での実績を評価していただき、新居浜の出店も任せていただきました。しかし、家具販売で下地のあった淡路と違って新居浜はまったくのゼロからのスタートでしたから、すごいプレッシャーでしたね。なんとかカタチになってほっとしているところです。

御社もしくは南さんの強み、競合他社との差別化ポイントは？

納品のスピード対応と親身なアフターフォロー、これに尽きると思います。利用者さんの身になって、納品であれ、修理であれ、一両日中には手配します。また、用具の点検に伺ったときには利用者さんの様子をケアマネさんに報告するのも、南流です（笑）。



↑心血を注いだ南あわじ支店



この仕事の魅力はなんですか？

介護用品というモノを通じて、お客様とケアマネージャー、医療介護のスタッフたち、人と人をつなぎ、お客様に少しでも心豊かな明るい毎日を送っていただけるようお支えするのが私の仕事です。様々な出会いがあることと、お客様がよくなった姿を見るときの喜びが何よりの魅力。そしてご本人はもちろん、ご家族からも喜んでいただける嬉しい仕事です。

とはいえ、レンタル契約を終えるときって、文字通り悲喜こもごもなんです。回復なさって、いままでありがとうと笑顔をいただくときには本当に嬉しい。一方で、亡くなられて引き上げるときにはいたたまれない。お若い場合はなおさらです。介護職もいのちに向き合う仕事ですが、用具を扱う我々も想いは同じ。だからこそ親身にお支えしたいと思うのです。

介護職から営業職へ。さらに次の転身はありますか？

上司や部下に恵まれ、すばらしい環境で仕事ができていますし、とにかく人が大好きだから、ずっとこの仕事をやっていくでしょうね。そしてね、ひとつとして同じ現場がないことも魅力なんです。やりがいがあって面白い。さらに出会いも楽しい。例えば、退院カンファレンスで、思いがけず同窓生に出会ったりする。するとうちを使ってもらえたりして、同窓会のつながりのありがたさを感じます。

ただ、いずれはマネジメントに絞っていきたいので、今若い営業マンを一生懸命育てているところです。

同窓会とどんなふうにつながっていきたいですか？



同窓生勉強会などで現場の皆さんに最新の福祉用具情報を届けたいですね。これまで忙しさにかまけてあまり貢献できてなかったから、そういう機会をつくっていきたいです。それでまたネットワークも広がりますしね。学生さんにも最新用具に触れてほしいですから、授業にお声かけいただければ喜んで伺いますよ。

淡路出店準備のときに、プレッシャーで沈みがちな気持ちを明るくしたくて選んだという赤いメガネフレーム。立ち上げの成功体験が、次の新居浜出店時にも、また赤を選ばせた。この先、いくつの赤いメガネをかけるのだろう。自分を明るく、お客様を明るく、そんな思いのこもった赤いメガネで、南さんは人と人をつないで、まだまだ走り続ける。

取材協力：株式会社旭木工
徳島市東沖洲2丁目7番地
（マリンピア流通団地）

～令和元年度～
専門学校 健祥会学園

同窓会総会

2019/10/19（SAT）

令和元年度の同窓会役員会・総会は専門学校 健祥会学園で開催されました。
会員諸氏の要望を受け、参加しやすさに配慮して、学園祭「全力疾走～令和の幕開け～」と同日開催。総会では、同窓会長・校長の挨拶のあと、平成30年度事業報告・会計報告・令和元年度会計予算（案）・事業計画（案）・役員改選が上程され、すべてが滞りなく承認されました。総会前には特別講演も行われ、同窓生諸氏にも参加していただきました。また、総会終了後の学園祭にも多くの方に足を運んでいただきました。

特別講演

抜粋・要約

たった一言で福祉が変わる！

～心と心をつなぐ ほめ言葉の魔法～

一般社団法人 日本ほめる達人協会 特別認定講師　西村　博 氏

【講師プロフィール】自動車販売店・車検専門店・ペットセレモニーの3店舗の経営者としての仕事のかたわら、「ほめる達人認定講師」「アンガーマネジメント認定講師」「ブランドコーチ」として、セミナーや講演活動に多忙な日々を送る。四国放送「ゴジカル！」で水曜日のレギュラーコメンテーターを務めるなど、メディアでも活躍中。7人の子どもの父親としての経験を生かし、親子関係や子育ての相談にも多くの実績。



西村氏は会場に「周りの人と笑顔で握手」を促し、後出しジャンケンゲームでぐっとなごませて、講演をスタートしました。

■「ほめる」とは、ヒト・モノ・出来事の価値を発見して伝えること

●成長し続ける人には3つの共通項がある。「知っているか知らないかではなく、自分ができているかどうかで学ぶ」「直接関係するかどうかではなく、自分に置き換えて学ぶ」「でも・だって・どうせの3Dを言わない」だ。

●「ほめる」ことをコントロールに使ってはいけない。「ほめる」ことはヒト・モノ・出来事の価値を発見して伝えることであり、光を届けること。相手を元気にするばかりか、「ほめる」ことで心の視野が広がり、視点が変わり、今まで見えなかったものが見えてくる。自分自身が変わり、成長につながる。

●人の話を聞くときには、「全力の拍手・しっかりうなずく・笑顔」が大事。これにより、前頭葉が活性化され、プラスのアイディアが生まれる。目の前の人に対してもポジティブな印象を持てば、「ほめる」思考につながる。

●同じものを見ていても見え方が違う。人は現実の一部しか見ていないということを知り、認識をすり合わせるコミュニケーションがとても大事だ。

●自分の価値をわからずに人を承認することはできないから、まず自分が言われたい言葉を意識すること。ボキャブラリーを豊富にして自分を褒めれば、少しずつなりたい自分に近づいていける。

●「すごいさすがすばらしい+すてき」これは、ほめ達の3S +1だ。口癖にしてほしい。ほめることでほめ脳になれる。

■ありがとうは最上級のほめ言葉

●人はただほめられたいのではなく、感謝されたいのだから、心が動いたら「ありがとう」を届けよう。言葉はプレゼントだ。プレゼントされたら喜んで受け取ろう。

●ほめ方叱り方そのものは重要ではない。大事なのは承認。いつも見てくれているという感覚。承認の土台が醸成されていれば、ほめても叱ってもちゃんと心に届く。

●初対面の人をほめるコツは、人との違い＝その人のこだわりを探し、そして浅くほめること。しっかり見ていくと、ほめるポイントは必ずたくさん見つかる！

最後に「お母さん」という存在の仕事の価値を気づかせてくれる映像を紹介し、講演を以下のように締めくくってくださいました。

17年前、仕事人間で家事育児にまったく手を貸さない私に愛想をつかした妻が家出し、このとき初めて家事育児を体験した。こんな大変なことを妻は24時間365日してくれていたのかと思うと申し訳なさと「ありがとう」の感謝の気持ちでいっぱいになった。これを機に「ほめる」ことを実践する決意をし、家庭が幸せになった。家族という土台があって、はじめて仕事もうまくいく。まず身近な存在をほめることから始めてほしい。この講演をきかっけに、みなさんがほめることの素晴らしさに気づき、ほめることでみんなが輝く社会をつくっていきたい。



利用者様のニーズの実現を目指す

伊藤　雅之 さん　介護福祉学科8期生

勤務先　社会福祉法人勝寿会　特別養護老人ホーム喜楽苑

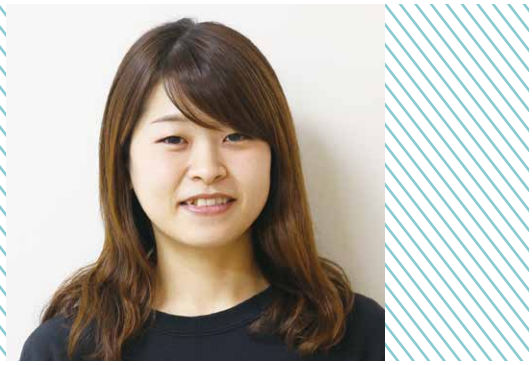
2005年に卒業し、施設実習でお世話にもなった社会福祉法人勝寿会に入職しました。以来15年間、勝浦川の清流と緑に囲まれた風光明媚な地で、介護業務、デイ相談員業務、施設相談員業務に携わり、現在は施設ケアマネジャーとして業務に当たっています。勝寿会の介護サービスを受けられている方の殆どが地元勝浦町の町民であり、町外の施設に行かれても「勝浦に帰りたい」と言われる利用者様が多く、施設待機者も100名近くとなっています。利用者様の多くが馴染みの人と接し、馴染みの風景に囲まれながら、慣れ親しんだ暮らしを継続していきたいと思われているのです。その一助となるよう、ケアマネジャーとして心がけていることは、利用者様・ご家族の言葉に誠意を持って耳を傾け、お一人おひとりのニーズの実現を目指し、現場の職員とのコミュニケーションや連携にも重きを置くこと、共通認識の下に適切なサービスを提供出来るよう、利用者様、ご家族に信頼される存在で有り続けたいと考え日々奮闘しています。

今年の夏、健祥会の同期数名と酒を酌み交わす機会があり、介護・福祉・医療、その他様々な分野で活躍している事を知り、大いに刺激を受けました。今後も職場の同僚や同期と切磋琢磨しつつ、福祉人として連携、協力して、たとえ高齢になり障害をもっても、誰もが安心して暮らせる地域や社会の構築に携わっていきたいと考えています。



+UPDATE

それぞれの現場で頑張る 4学科卒業生近況報告



子どもたちの成長と共に

上枝　由佳 さん　保育福祉学科7期生

勤務先　社会福祉法人健祥会 とくしま健祥会保育園

私は保育士になって2年目になり、日々可愛い子どもたちに元気パワーをもらいながら、頑張っています。その中で今一番やりがいを感じているのは、子どもたちの成長発達を傍で見られることです。就職して1年目は、1歳児クラスの担任になりました。月齢によって子どもたちの成長も違い、少し話すことができる子、喃語で「あー、うー」と言っている子など様々でした。子どもたちは大人が言っていることを真似たり、歌や手遊びを通して言葉に興味をもったり、少しずつ言葉が増えてきます。初めは上手く会話できなかった子どもたちが、日々の保育園生活で友だちや保育者との関わりを通して言葉のやりとりが見られるようになりました。おもちゃが欲しいときには「貸して」と言ったり、「一緒に遊ぼう！」「いいよ！」と友だち同士での会話を楽しんだりする姿も見られ、進級・入園時には見ることのできなかった場面がたくさん見られるようになりました。これは、保育士になったからこそ見ることのできる瞬間であり、保育士になって良かったと思う瞬間でもあります。私は今、学校の授業で学んだことを現場で実践しながら、人間形成の土台となるこの乳幼児期の保育・教育に携われる責任ある仕事と向き合い、たくさんのことを学んでいます。これからも子どもたちの豊かな育ちのため、一人ひとりの子どもに寄り添いながら楽しい時間を共有していきたいです。そして、子どもたちが“保育園楽しい！”“保育園行きたい！”と思える魅力ある保育環境や保育活動を工夫し、子どもたちの笑顔に力をもらいながら、保育の仕事を続けていきたいです。







さらなる成長を目指して

枇杷谷（旧姓 大喜）**駿也** さん　理学療法学科12期生

勤務先　医療法人 ひまわり会 中洲八木病院

私は高校生時代に怪我をし、手術を受け、初めて入院生活を送りました。その中で理学療法士という職業を知りました。それから理学療法士を目指すため、健祥会学園に入学しました。初めて学ぶ医療の知識は、とても難しく感じましたが、先生方から分かりやすく説明して頂き、なんとか必死についていった事を覚えています。学外での長期臨床実習では、初めて『病院』という場で『患者様』と関わり、自分の知識量の少なさや、技術の低さを感じ、改めて理学療法士という職業の責任感、難しさを感じた反面、動作が遂行できた時の患者様の喜びを同じように共有できることの嬉しさもありました。
そんな学生時代を経て、現在は理学療法士として病院で働いています。入職してから5年が経ち、徳島県理学療法士学会や四国理学療法士学会、回復期リハビリテーション学会など、精力的に自身の活動を院外に発信しています。内容は、高齢者では特に多いとされる大腿骨近位部骨折の方を対象に超音波画像診断装置を用いて筋肉の経時的な変化を見ることや、栄養状態と歩行能力の関係、栄養状態と筋力の関係など、整形外科疾患における臨床研究です。当院は回復期病院であることから、入院時から退院時まで患者様と長期的に携わる期間があります。よりよい理学療法を患者様に提供できるよう、これからも知識や技術の向上に努めていこうと思います。





リハビリテーションの「技術継承」

舩越　稔 さん　作業療法学科3期生

勤務先　医療法人 きたじま倚山会 きたじま田岡病院

私がきたじま田岡病院へ移ってから、約5年が経過しました。現在は技術部門の主任といった役割を担っており、医療技術部門の主な役割は「技術面への指導」です。
リハ技術の継承の難しさは、手順ややり方といった安易に言語化された方法論のみの「形式知」と言われる範疇の伝達では、その本質である「言語ではうまく言い表せないが確かな技術」の伝承までには至らない点にあります。個人の経験に基づく知識、これは「暗黙知」と言われますが、それをどのように年齢や体格、性別、経験年数といった個性による違いや、対象者へハンドリングで得る知覚の捉え方といった感性の違いを他者とどう実感として共有できるかが課題となります。
そこで、SECIモデルを基にした指導を実践していますが、その中で、臨床場面と教育場面はリンクすると切に感じています。臨床場面ではハンドリングを通して能動的に動き出せる状態へ対象者を導き、一緒に体験することで問題点やその課題のコツを共有しそれを学習へとつなげていきます。
それは教育場面においても同様で、対象者を三人称的に診て、評価し、介入するのではなく、相手との感性の違いを認め、その上で理解しようとする二人称的かかわりへの気概が必要となります。
大事なことは、「治療する」といった視点ではなく、対象者が自己組織的に変化していくため「能動性をいかに引き出し導けるか」に熱意をもって探求し続けられるかにあると考えています。そのようなセラピストの育成が私の今後も続く役割であり課題です。



同窓会勉強会報告

専門職として常に進化し続けるために！「学び」を支える同窓会でありたい

介護福祉学科

2019年8月20日(火)14:00～15:30

美容師から学ぶ洗髪技術

●講師:美容室サワコ　森田 康稔 さん(19期生)
●参加:12名

現在は美容師として活躍する講師から、介護を必要とする方々に気持ちよく洗髪、ブローを受けていただけるよう、講義と実演を交えて教えていただきました。利用者だけでなく、誰にでも役立つ技術や知識を得る有意義な機会となりました。

2019年9月10日(火)13:30～15:00

体験から学ぶうどんレク

●講師:株式会社ウエストフードプランニング 讃岐うどん こだわり麺や
営業部『うどんレク』元気玉アドバイザー　山本 直樹 さん　他、アシスタント2名
●参加:14名(ケアハウス 健祥会ひまわり利用者様6名)

通所系サービスでは「次はどんなレクリエーション活動をしようか」と悩まれることもあるかと思います。そこで、今回は香川県を中心に活動されている『うどんレク』の講師をお招きしました。レクチャーを受け、実際にうどん作りを体験し、実食しながら、その演出方法などを学びました。また同窓生、在校生に加え、ケアハウスを利用されている方にも参加していただくことができ、共に楽しみながら交流する機会ともなりました。ぜひ、レクリエーション活動のレパートリーに加えてみてください。

保育福祉学科・保育学科

2019年6月28日(金)18:30～20:00

同窓生の近況報告(卒業生と教員の意見交換)
教員の研修報告

●講師:教員 七條 陽子・宮城 祐太郎
●参加:15名

第1回目ということで、各自が自己紹介し、近況報告を行いました。
その後、教員2名が参加した研修について報告を行いました。
参加者からは、「研修等に参加する機会が少ないため、こういう報告会はうれしい」「今後に役立てたい」との声があったため、これからも機会があれば続けていきたいと思っています。

2019年12月12日(木)18:30～19:30

フラワーアレンジメント(クリスマスバージョン)

●講師:花由フラワー教室　岡田 直佳 さん
●参加:12名

フラワーアレンジメントの実技講習会を行いました。
講師の先生より飾り方やラッピングについてのアドバイスをいただき、各々の素敵な作品が仕上がりました。参加者も笑顔で、自分の出来栄えに納得し、家庭や職場に飾りたいと話していました。今回の学びをいろいろな場面で活かしてほしいです。

作業療法学科

2019年6月28日(金)19:00～20:30

作業療法の実践と作業科学

●講師:博愛記念病院　瀬河 亮介 さん(13期生)
●参加:5名

作業療法介入プロセスモデル(OTIPM)の講義と臨床活用についてお話しいただきました。参加者も質疑応答を通して、作業療法における「意味のある作業」に焦点を当てることの重要性を再認識する機会となりました。

2019年8月2日(金)19:00～20:30

四国作業療法学会・日本作業療法学会プレ発表

●講師:小松島病院　国清 篤志 さん(9期生)
徳島市民病院　三宅 輝美 さん(13期生)
●参加:6名

第30回四国作業療法学会および第53回日本作業療法学会のプレ発表を行いました。作業療法士が関わる総合事業や脳血管疾患に対するロボットハンドについて、質疑応答を通して参加者同士で多くの議論を展開し、非常に有意義な勉強会となりました。

2019年11月8日(金)19:00～20:30

自動車運転支援と就労支援について

●講師:伊月病院　吉岡 諒 さん(8期生)
●参加:6名

障がい者の社会復帰を目的とした自動車運転再開支援や就労支援の講義と体験を行いました。自動車運転再開支援では、参加者も実際にSDSA(脳卒中ドライバースクリーニング評価)の体験や改造車に用いる旋回ノブに触れながら意見交換を行うことができました。

2020年2月12日(水) 19:00～20:30

高次脳機能の概論と事例紹介

●講師:稲次病院　田村 恭佑 さん(13期生)
●参加:5名

社会復帰に難渋することも多い高次脳機能障害の概要について教えていただき、事例を通して実際の支援方法や対応などの意見を出し合い、学びを深めました。

理学療法学科

2020年2月12日(水)19:00～20:30 **スポーツ障害に対する理学療法**

●講師:加藤整形外科クリニック　流 一貴 さん(4期生)●参加:35名

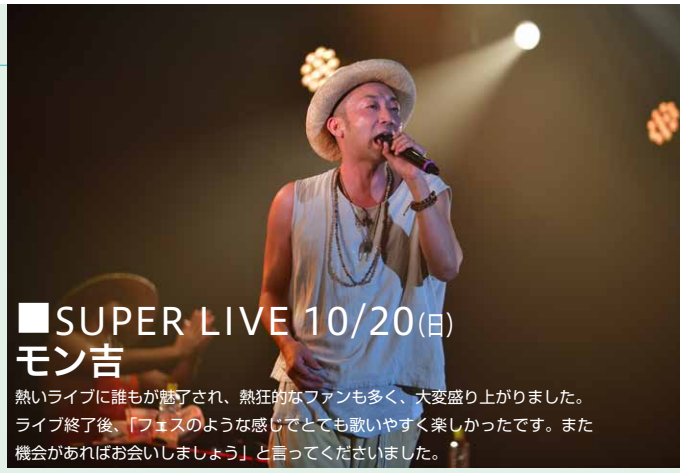
トレーナーとしても活動されている理学療法士の先生に障害予防を中心に、理学療法のポイントを教えていただきました。

TOPICS

専門学校 健祥会学園 第24回学園祭
School Festival



ステージイベントや学科紹介、アトラクション、模擬店など学生主体の学園祭が開催され、オープニングの前には文化講演会、2日目にはオープンキャンパスも行い、多くの方にご来場いただきました。また、介護の日(11月11日)のスペシャルイベントとして、認知症を体験することができるVR体験コーナーを設置し、多くの方に認知症についての理解を深めていただきました。



■SUPER LIVE 10/20(日)
モン吉

熱いライブに誰もが魅了され、熱狂的なファンも多く、大変盛り上がりました。ライブ終了後、「フェスのような感じでとても歌いやすく楽しかったです。また機会があればお会いしましょう」と言ってくださいました。

卒業生がナビゲーター
# オープンキャンパス
2019年7月27日(土)

各学科の卒業生にご協力願い、現場でプロとして働く先輩達の生の声を参加者の皆さんに届けました。「仕事について」「学生生活について」「授業内容について」など、リアルな話に熱心に耳を傾けていただくことができました。

■介護福祉学科

【ナビゲーター】
岩佐 悠可 さん(特別養護老人ホーム 笑顔 11期生)

人体模型を見ながら、複雑なヒトのからだの仕組みを学び、参加者は興味津々でした。また、岩佐さんからは在学中の思い出や介護福祉士としての仕事のやりがい、学校ルートでの資格取得のメリットなどを話していただきました。



■理学療法学科

【ナビゲーター】
加藤 志帆 さん(特定非営利活動法人 あかねの和 5期生)
松本 真巳 さん(鴨島病院 8期生)

専門的な「小児の理学療法」と「スポーツの理学療法」を講義していただきました。加藤さんは女性理学療法士として子どもやママを対象としたリハで活躍されています。オープンキャンパスでは、小児の発達をはじめ、産まれてから寝返りやハイハイをして歩くまでの動作などを体験しました。松本さんにはスポーツ現場の理学療法士の仕事についてお話しいただき、人の身体の仕組みを教えていただきながら、身体の柔軟性の改善方法を体験しました。



■保育学科

【ナビゲーター】
眞重 葵 さん(青嵐認定こども園 2期生)
村中 雛 さん(こまつしま健祥会認定こども園 2期生)





実際に職場で子どもたちと行っている手遊びやダンスなどを一緒に体験しました。少し恥ずかしそうにしている参加者には「子どもの前では、照れずに一緒に楽しむことが大切」など、アドバイスをいただきました。保育教諭としての姿勢や保育技術について感じてもらえたようでした。

■作業療法学科

【ナビゲーター】
岩崎 竜太 さん(伊月病院 9期生)
村上 義和 さん(伊月病院 9期生)
寺橋 絵理 さん(通所リハビリテーション 眉山のマホロバ 11期生)
森 未奈 さん(眉山病院 11期生)

作業療法士の仕事について、臨床現場の視点から治療や地域支援に至るまで分かりやすく説明していただきました。参加者は作業療法士の職域の広さを知ると共に、対象者の方々に対する想いを共有でき、とても良い時間を過ごすことができました。



NEW FACE 新教員紹介



介護福祉学科 教員
佐藤淳史

これまで介護福祉士、介護支援専門員として経験を積んできました。刻々と変わり続ける社会に対応しながら、求められる介護福祉士として活躍できるよう、これまでの経験を基に、分かりやすく知識・技術を伝えながら、人がいかに生きるかということも一緒に考えていきたいと思います。



保育学科 教員
宮城祐太郎

前年度まで鳴門教育大学大学院にて幼児教育学の研究をしていました。現在は、保育学科1年の副担任を務めるとともに「言語表現」や「健康」等の授業を受け持っております。学生たちが、子どもの笑顔を生み出し寄り添えるような保育者となれるよう、私がこれまでに学び得た知識や技術を一生懸命伝えていきたいと思います。



作業療法学科 教員
大前博司

徳島健祥会福祉専門学校(現 専門学校 健祥会学園)を卒業し、2011 年 4 月～ 2019 年 3 月までの 8 年間、医療機関に勤務しておりました。現場での経験を活かし、自身が学び得た知識・技術をわかりやすく学生に伝え、学生と共に成長していけるように努力したいと思います。どうぞよろしくお願いします。

■2019年度 専門学校 健祥会学園　同窓会役員

会　長　藤原 慶治(介護1期)
副会長　立石 広志(理学4期)・舩越 稔(作業3期)
　　武田 英二(校長)
幹　事　木下 雄二(介護7期)・荒岡 優(介護14期)
　　内田 真理子(介護15期)・多田 裕介(保福1期)
　　竹内 大介(理学1期)・加藤 志帆(理学5期)
　　片岡 一誠(理学12期)
　　長谷部 有哉(作業5期)・武市 薫(作業9期)
監　事　船戸 毅(介護7期)・出葉 優花(保育1期)
事務局　小谷 盛子(専門学校 健祥会学園)
　　冨永 佳映(専門学校 健祥会学園)

編集後記

新しい時代が幕を開けた2019年。時代の気配を映してか、同窓会の活動も例年にも増して活発となり、同窓会勉強会も数多く開催されました。ロングインタビューには、大先輩 介護福祉学科3期生の南健司さんが登場。いいお話を伺うことができ、改めて、同窓生のネットワークをもっともっと強くしたいと感じました。つながっていくための活動にさらに知恵を絞りたいと思います。同窓会会報Will　vol.13、制作にあたりご協力をいただきました皆様方に心より感謝申し上げます。また、今までは同窓会会報も含め、講座案内などを同窓生の皆様に郵送していましたが令和元年度から本学園のホームページでお知らせすることとなりました。同窓会勉強会や総会、その他のご案内など随時掲載してまいりますので、ぜひご覧ください。

事務局

社会福祉法人健祥会 専門学校
健祥会学園

専門学校 健祥会学園 同窓会会報 | ウィル

発行元　専門学校 健祥会学園同窓会　　発行日　2020 年 3 月 1 日
〒779-3105 徳島市国府町東高輪　　TEL088-642-9666

不許複製